

第2回四国ブロッククラブミーティング2010（1日目）

日時：平成22年11月27日（土）13時15分～17時

会場：愛媛県「国立大洲青少年交流の家」

はじめに・・・

11月27日（土）に愛媛県の国立大洲青少年交流の家において、第2回四国ブロッククラブミーティングが開催され、創設支援クラブ・自立支援クラブ・連絡協議会加入クラブ、県関係者・クラブ育成アドバイザーより、52名の参加があった。

今回のクラブミーティングの目的は「クラブづくりの検証と探求」という点に主題を置いた。それは、各クラブのこれまでの活動や取り組みを振り返り、評価し、成果や課題を明らかにすることが、クラブが次のステップに向かっていくために重要なことであり、そのことについて考える機会を設けたいと考えたからである。

基調講演：「クラブづくりの検証と探求」長積 仁 氏(立命館大学)

まず、昨年度まで、四国ブロック地方企画班長を長年にわたり熱心に、強烈に？引張ってこられた立命館大学長積仁教授より、メインテーマに関する基調講演が行われた。

「自助・共助・公助で育む総合型クラブ～人と地域とスポーツをつなぐクラブとは？～」と題して、新しく文部科学省が公表した「スポーツ立国戦略」に関する内容も含めた講演をいただいた。

総合型クラブとしての組織をどのように定義し、組織としての成果をどのように考えるのかということに関して「総合型地域スポーツクラブは何をするための組織か」と問われた。長積氏は、組織によって成し遂げたいと思う“成果”によって組織は定義づけられ、顧客が「何をしたいのかではなく、何を欲しているのかを問う」ことが重要であると主張した。

また、総合型クラブが担う“新しい公共”について、「アクティブ・ライフスタイル、楽しみの醸成、ボランティアリズム、雇用・職業機会、教育、都市イメージ、社会的な結束力、社会変革、市民の誇り」等の観点から、自助・共助・公助に関する内容をわかりやすく説明していただいた。

四国を離れられて、外から見た四国の総合型クラブの姿はどのように見えるかという観点からも少しお話をいただき、話を締めくくった。



グループディスカッション

参加者が6つのグループに分かれ、事前に提出された課題等に対して、クラブ育成アドバイザーや地方企画班員、四国ブロックの総合型クラブからの回答をもとにディスカッションを行った。

この方法は、今回が初めての取り組みである。参加者が抱える悩み・課題に対して、実際のクラブ関係者やクラブ育成アドバイザーが自分の体験や様々な知識を活用し、貴重な情報を持ちよった。その回答を冊子として取りまとめ、それをもとに内容の濃いグループディスカッションが展開された。

「組織と運営」について、特に人件費に関する内容でディスカッションが行われた。自立支援クラブや連絡協議会加入クラブも参加しており、それぞれのクラブでの取り組みや裏話などが聞けた。指定管理制度における雇用、緊急雇用、toto事業での雇用や



社会保険の内容に関することなど細かい内容まで話げできた。

また、資格取得者を雇用することで事業受託（健康運動指導士：厚生労働省関係の介護予防事業など）が可能となるなど新しい発見や今後の事業展開につながるような話し合いが行われた。

「人材と育成」では、運営スタッフや指導者育成、ボランティア育成などの話げ中心に行われた。いつも同じ人が県主催の会議等に出席してはダメ、できるだけ多くの人に参加してもらい、クラブ運営のノウハウを学んでもらうことが大事。地域での人材発掘の面白い方法、指導者謝金の歩合制契約、地域の保健師、理学療法士などの活用、クラブマネージャーが健康づくりの資格を取得し、事業を行っているなどの事例が話し合われた。

「活動場所と施設」では、施設の有効活用、行政との関わりという点を中心に話げ行われた。既存の施設だけでなく、公民館や学校体育施設（柔剣道場など）の活用例などが出された。また、行政への要望により、ナイター設備が設置された事例も報告された。

「財源と財務」では、toto助成が終わった後に自主運営できるかという内容が中心となった。それまでに自己財源率の増加、toto助成中に基金創設の検討を行う、クラブ内指導者の育成、行政などからの事業受託を構築していくことが大事であるなどの意見が出された。

「プログラムとイベント」では、中・高校生、男性の参加が少ないなどの課題が出され、中学校運動部活動と総合型クラブとの連携、地域の運動会と総合型クラブ啓発フォーラムの連携などの事例が報告された。

また、四国ブロックでは、日本体育協会のSCステーションを製本し、参加者に配布した。SCステーションは日本体育協会のホームページ上で次の項目に分類されたQ&A集で構成されている。

1. クラブのつくり方
2. 組織と運営
3. 人材と育成
4. 活動場所と施設
5. 事業計画と評価
6. 広報とPR
7. 財源と財務
8. 競技力向上とクラブ
9. プログラムとイベント
10. 事務局の仕事

この中には、様々な立場の方が実際の現場で感じたことや成し遂げたこと（成功や失敗など）、クラブにとってとても参考になる内容が多く含まれており、それぞれの段階に応じて、あるいは知りたい内容に応じて調べることができるものである。

おわりに…

本日参加された方に対して、SCステーションを製本したものを配布した。それは、クラブ育成アドバイザーや広域SCの職員だけでなく、各クラブにおいて専門的な知識を有した方をできるだけ養成してほしいという思いと、そのことが良いクラブづくりと継続的なクラブ運営に繋がっていくものであると考えたためである。

また、近隣クラブや県外クラブとの連絡を密にできれば、困ったときに相談相手となったり、一緒にイベントなどが実施できたりと、お互いのクラブ運営に相乗効果が生まれてくるだろう。四国という身近なエリアで“四国は一つ”を合言葉にこれかも楽しいクラブライフを送っていただきたい。

（報告：四国ブロック地方企画班員 前田 義朗）



第2回四国ブロッククラブミーティング2010（2日目）

日時：平成22年11月28日（日）10時～17時

会場：愛媛県「国立大洲青少年交流の家」

はじめに…

第2日目は、第1日の参加者に、自立支援クラブ及び四国ブロック内の県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会加入クラブからの参加者も加え、96名の参加があった。会場は前日に引き続き国立大洲青少年交流の家で開催された。

午前中のプレイベントは、多くのクラブではあまりなじみのない種目を各県から1つ準備し、また、当地ならではの種目で交流を行った。

午後のプログラムは、各県のクラブ育成アドバイザーとクラブ代表者によるパネルディスカッションとクラブミーティングに先立ち実施したアンケートや聞き取り調査により、参加予定者の要望を聞き、抱えている課題について5つの分科会に別れ協議を行った。

（愛媛県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会会長 能田雅雄）

プレイベント

朝早くから、5種目を実施したプレイベントには、60名の参加があり、皆、心地よい汗を流し、活発に交流することができ、午後の全体会をスムーズに迎えることができた。5つの種目については、今後、四国の中で広めていきたいものであり、今後のクラブ間の交流が期待できるものとなった。

- クライミング（西田六助：愛媛県・うわじまアウトドアスポーツクラブ）
- ボクササイズ（渡邊大吾：愛媛県・総合型潮見地域スポーツクラブ）
- ユニカール（鈴木 勤：香川県・さぬき三木スポーツクラブ）
- スカッシュバレー（山崎正浩：高知県・NPO法人すさきスポーツクラブ）
- 阿波踊り・スポンジテニス（秋成ふみよ：徳島県・K-F r i e n d s）



アトラクション「おおずスポーツクラブ【ZUMBA】」

午後のプログラムに先立ち、地元、愛媛県のおおずスポーツクラブの活動プログラムから「ZUMBA」をインストラクターらにより披露いただいた。ZUMBAはラテン系を中心に様々な音楽とダンス、それにフィットネスエクササイズを融合させたダンスエクササイズであり、総合型クラブにとっては珍しいプログラムということで、参加者も一緒に体験された。



パネルディスカッション

テーマ：おらがクラブ自慢

コーディネーター：齊藤 栄嗣（四国ブロック地方企画班長）

発表者：香川県 大山 晶子（クラブ育成アドバイザー）／池田 和泰（むれスポーツクラブ）

徳島県 北條 種一（クラブ育成アドバイザー）／溝上 由美（K-F r i e n d s）

愛媛県 作田 拓（クラブ育成アドバイザー）／石川 幸雄（川之江T&Fクラブ）

高知県 濱田 邦彦（高知県教育委員会）／松本 正邦（NPO法人すさきスポーツクラブ）

まず、クラブ育成アドバイザー等より各県の総合型クラブ育成状況の報告があり、その後、各県を代表するクラブに事例発表を行っていただいた。各県のクラブ代表がこのような場で自分のクラブについて熱い思いを持って発表してもらうことは、大変意義がある。それぞれのクラブが特色ある活動を行っており、参加者にとって自分のクラブでの活動を振り返り、他クラブの新しい取り組みを確認する良い機会となった。



分科会1「NPO 法人の設立と税務」

講演者：弘末 眞子（弘末眞子税理士事務所）

コーディネーター：能田 雅雄（四国ブロック地方企画班員）

愛媛県でNPO法人の税務に関していただき、総合型クラブの運営についてもご指導いただいている、弘末眞子税理士にNPO法人の設立と税務について説明いただいた。

法人化の中で、何故NPO法人なのか。NPO法人とするメリットとデメリットはどういうものか。さらに、NPO法人化したときの留意点など細かに説明いただいた。

また、経費節減や節税のノウハウも併せてご教示いただき、参加者は経理担当者がほとんどで、実際のクラブ運営において実務を担当されていることから、大いに参考となったのではと思われる。



（能田 雅雄）

分科会2 「toto 助成の現状と事務処理」

講演者：金谷 英信（日本体育協会）

コーディネーター：前田 義朗（四国ブロック地方企画班員）

平成23年度 toto 助成金について、日本体育協会の金谷氏より平成22度からの変更点、適正な経理処理、審査の観点などについて詳しく説明された。特に、旅費の取り扱い等の変更点についての質問があり、的確な回答をしていただいた。

その後、前田より、高知県の来楽部あつきいーなの申請書類を参考資料として、書類作成に関する注意事項を細かく説明した。

最後に、本日参加されたクラブにおいては、日本体育協会に申請書提出時に迷惑をかけないよう本日の資料をもとに作成していただきたいとお願いし終了した。皆、助成金に関わる内容だったため、真剣に聞き、疑問点は速やかに質問されていた。



(前田義朗)

分科会3 「行政との協働」

講演者：伊賀上 哲旭（NPO 法人今治しまなみスポーツクラブ）

コーディネーター：龍山 義弘（えひめ広域スポーツセンター）

最初に伊賀上氏より、大学在学時に「総合型地域スポーツクラブ」について研究し、卒業後に西予市の職員として採用され、西予市において総合型クラブの立ち上げに奔走した事例を紹介していただいた。

その後、参加者にも意見を求めたところ、参加者からは、「町（行政）の協力は全くない」「行政の担当者に『これ以上、補助金が必要な団体を作るのは止めてくれ！』と言われたことがある」といった意見など、行政の協力が得られていないという意見が続出した。

各県、各市町の行政の取り組みや協力体制に大きな格差があるなかで、地域住民と行政が一体となり総合型地域スポーツクラブ創設に向けて取り組んでいくことの必要性と難しさを改めて確認することとなった分科会であった。



(龍山 義弘)

分科会4 「まちづくり（文化）活動との協働」

講演者：森實 雄二（金子地域文化スポーツクラブ）

コーディネーター：齊藤 栄嗣（四国ブロック地方企画班長）

新居浜市金子地域文化スポーツクラブの森實氏より、地域交流センターを拠点としたクラブと連合自治会との協働について発表いただいた。金子校区連合自治会の中の一つの組織として設立し、地域交流センター（元公民館）の運営の下に文化スポーツ活動をしているこのクラブは、分科会参加者にとって、最初は理解されにくいものであったと感じた。しかし、地域交流センターの活動とクラブの活動を一本化し、文化・スポーツ活動の幅を広げたこのクラブは、多くの総合型クラブが苦勞している「人集め」



「経費」「他組織との連携」等をクリアし、連合自治会を組織する他の団体（自治会・老人会・婦人会・PTA・子供会・消防団等）と協働した「まちづくり」活動に貢献していることに気付かされたのではないだろうか。森實氏の発表は、総合型クラブの考え方や組織の在り方を「連合自治会そのものが総合型地域文化スポーツクラブ」と考えさせられるものであり、この分科会に参加した方は、クラブ運営に大いに参考になったと感じた。

（齊藤 栄嗣）

分科会5「既存団体との協働」

講演者：森 達正氏（西条中央スポーツクラブ）

コーディネーター：大西 真知子（四国ブロック地方企画班員）

スポーツ少年団（種目：サッカー）を母体にスタートし、紆余曲折の末、よりよい組織をとの思いから総合型地域スポーツクラブを設立・展開している西条中央スポーツクラブの森氏より発表いただいた。息の長いクラブづくりを心がけ、まずは市サッカー協会と連携して多世代の教室開催や指導者育成に取り組むとともに、協会へは大会・イベントの協力と、既存団体と常にベネフィットが保てるよう努力されている。

更に、文化団体・自然保護団体等と連携し、伝統文化の継承にも寄与しているとのことである。

自治体合併後、スポーツを介して市民との一体感の醸成にも取り組み、総合型地域スポーツクラブだからできることを提供した結果、支援してくれる人々や団体が増え、クラブには大きなメリットとなってきた経緯を話された。地域へ果たす役割をしっかりと有し、地域になくってはならないクラブとして活動していることで、既存団体との連携・協働が可能となっている現状は、分科会参加クラブにとって効果的かつ実践的な情報を得ることができた。



（大西 真知子）

おわりに・・・

2日間の四国ブロッククラブミーティングが終わり、充実感で一杯である。1日目のクラブミーティングでは、創設支援クラブの課題、悩み、設立済みクラブの面白い取り組み等を皆でワイワイいながら議論をすることができ、少しでもこれからのクラブ運営に役立つものになればと思う。

その夜の懇親会では、日付が変わるまで皆で総合型クラブの話やいろいろな話をする事ができ、総合型クラブに関わる方々の熱い思いを感じ、元気をいただくことができた。

2日目のイベントでは、初めて体験する種目もあり、ワクワクしながら夢中に楽しんだ。ボクシングでは、ミットに思いっきり打ちこみスカッとし、クライミングでは腕がパンパンになるまで登り（疲れな方法を後で教えていただいた）、ユニカールではプレッシャーに弱い仲間の姿に笑い、スカッシュでは本気モードでアタックを打ち、阿波踊りではリズム感の無さを感じ・・・。総合型クラブはやっぱり楽しくなくてはならないと痛感したところである。

分科会では、それぞれ充実した内容が用意され、時間もあっという間に過ぎた。

今回、このような企画をしていただいた愛媛県の総合型クラブの関係者をはじめ、参加された皆さんに感謝したい。

（報告：四国ブロック地方企画班員 前田 義朗）